

## 19. 基礎看護技術習得に向けた自己学習への取り組みの評価

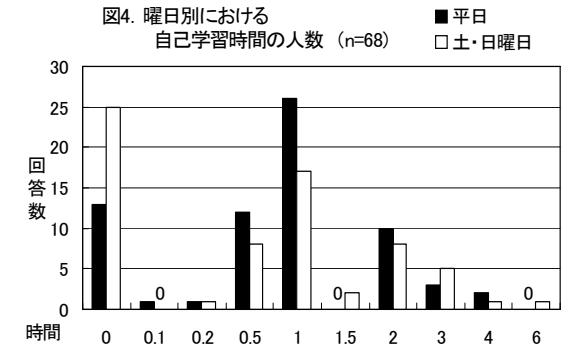
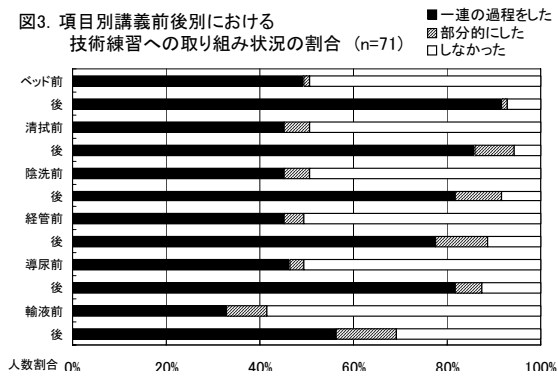
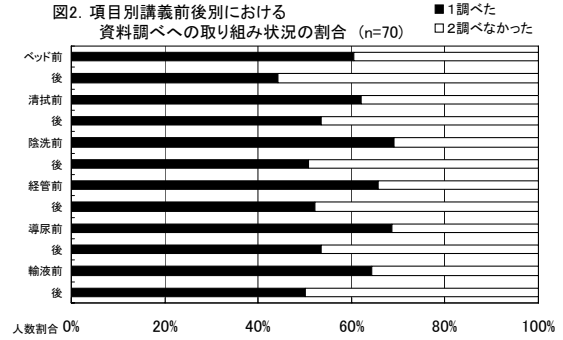
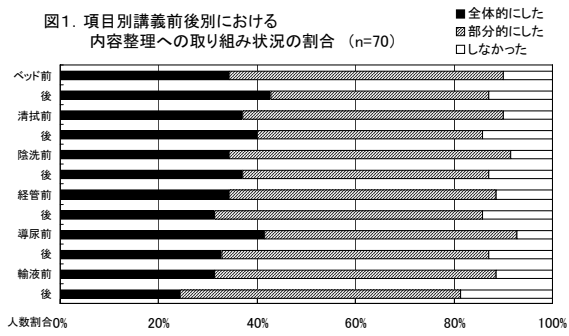
野村晴香 平瀬節子 坂本雅代 高橋永子

高知大学医学部看護学科基礎看護学講座

**1. 背景・目的:**基礎看護技術の講義は、学生が知識を深められるように講義前に学習資料を提示する等取り組みを行ってきた。しかしこれらの取り組みが学生の主体的な学習となっているのか把握が不十分である。そこで本研究の目的は看護実践の基礎となる基礎看護技術の習得に向けた学生の自己学習への取り組みの実態を明らかにし、教育方法への評価を行なうことである。

**2. 方法:**対象者はA大学看護学科1年生・2年生で生活援助技術論を受講した学生121名である。データ収集方法はアンケート調査で、内容は基礎看護技術6項目に対する講義前・講義後の学習への取り組みの実態、分析方法は項目別に記述統計量を求めた。調査期間は2008年12月である。倫理的配慮は対象者に研究概要を説明し、個別封印後回収箱へ投函を依頼した。本研究は、高知大学医学部倫理委員会の承認を得た。

**3. 結果:**回収率は58.7%(71回答)であった。内容整理の取り組み(図1)では、各項目とも講義前後で全体的にしたと部分的にしたを合わせると80%以上が実施していた。資料調べの取り組み(図2)では、調べたは、前60%・後50%であり、調べなかったは前後40~60%みられた。技術練習の取り組み(図3)は、一連の過程をしたと部分的にしたを合わせると、前50%・後70~90%以上であり、しなかったは後でも7~30%みられた。自己学習時間(図4)の平均は1時間であり、平日は1時間の人数が最も多く26名で、土日は0時間の人数が最も多く25名みられた。



4. 考察・まとめ: 講義前に学習資料を提示することは、学生の自己学習への取り組みの動機付けになったと考えられる。今後の教育方法の検討として、内容整理や資料調べは、看護技術の原理や方法などの根拠や概要の把握となることから、自己学習から資料探索などによる思考発展へと繋げられるような支援が必要であることと、看護技術習得に向け、学生の意識を高め、十分な取り組みができるように援助をする必要がある。